科目ナンバリング	U-LAS41 10001 PJ49						
授業科目名 <英訳>	スポーツ実習ＩＡ ［バドミントン］ Sports I A [Badminton]			担当者所属 職名・氏名	非常勤講師 道端　明子		
群	健康・スポーツ科目群	分野(分類)	スポーツ実習			使用言語	日本語
旧群	D群	単位数	1単位	週コマ数	1コマ	授業形態	実習（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・前期	曜時限	金1	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

　この講座では、「生涯スポーツの立場」から、バドミントンを通し、運動不足に陥らない身体づくりの基本的な実施方法を学ぶ。また、共に受講する学生との関わりを通して、自分一人でストレスや課題を抱え込まず、共に協力できる仲間づくりの大切さを学ぶ。
　スポーツには、プロスポーツやオリンピックに代表される「競技スポーツ」と、スポーツに楽しみを求め、健康づくりや社交の場としてスポーツを実施し、身近な生活の場に取り入れる「生涯スポーツ」がある。「競技スポーツ」は、技術や記録の向上を目指し、人間の極限への挑戦を追及する選手のスポーツであり、時として健康を害するところまで自分の体や精神を追い込んでしまう危険性をはらんでいる。 一方「生涯スポーツ」は、ひとりひとりのライフスタイルや年齢、体力、運動技能、興味等に応じて、生涯にわたりいろいろな形でスポーツと関わりを持ち、スポーツの持つ多くの意義と役割を暮らしの中に取り入れることを重要としている。

　受講希望の学生は、「生涯スポーツ」の概念を理解し、授業に参加することで、健康寿命の延伸を図ることができる心と身体づくりの基礎を習得することを目的とする。

[到達目標]

授業の目標として、１）シングルス、ダブルスの試合を成立させる　２）マナーを理解する。

本講座では基本技術、試合の進め方・戦略、ルール等、バドミントンに関する基本的な学習内容を習得し、講座期間内にシングルス・ダブルスゲームを通してそれぞれの戦術を理解し、実施できるよう努める。

また、定期的な運動の実施により健康維持・体力増進を図り、バドミントンのプレー（練習・試合）を通して仲間とのコミュニケーション力を養い、生涯を通じてストレス社会に対応できる力を習得する。

[授業計画と内容]

第１回：ガイダンス

ガイダンスを除き、１３回の授業、及び１回のフードバックを行う

＜基本動作の習得＞
（※チーム分け）
第２回　コートの設営、ネットの張り方など、シャトルに慣れる⇒ラケットの使い方、シャトルと身体との距離感を感じる。

第３回　基本ストローク（サービス、ハイクリアー等）の習得。実践練習と簡易ゲーム
第４回　基本ストローク（スマッシュ、ドロップ等）の習得。実践練習と簡易ゲーム
第５回　基本ストローク（ドライブ、ヘアピン等）の習得。実践練習と簡易ゲーム

スポーツ実習ＩＡ ［バドミントン］(2)へ続く↓↓↓

（※チーム分け・シングルス）
第６回　ルールの理解、ゲーム
第７回　審判法の理解、ゲーム
第８回　シングルス戦術、ゲーム

（※チーム分け・ダブルス）
第９回　ルールの理解、ゲーム
第10回　審判法の理解、ゲーム
第11回　ダブルス戦術、ゲーム

（※チーム分け・リーグ戦）

第12回　ゲーム
第13回　ゲーム
第14回　ゲーム

第15回　フィードバック

[履修要件]

ラケットを持ったことのない初心者から大会出場経験者まで受講可能です。
バドミントンに関する技術レベルに制限はありません。
バドミントンはいろいろな技術を駆使して、得点につなげる楽しさ。技術の向上による楽しさ。仲間と共にプレーする楽しさ等があり、初心者でも十分にゲームを楽しめるスポーツです。
経験者、初心者問わず、今もっている力を存分に伸ばす努力のできる学生を希望します。

[成績評価の方法・観点]

この授業は実習科目であるため、以下を評価の重要なポイントとする。
①　出席状況と授業への取り組み
②　他の受講生と協力し、バドミントンの技術習得およびマナーの向上を図れるよう積極的に授業に参加していること

詳細な評価基準として

平常点・・・（６０点）
・出席と参加の状況、コメントシートの提出
実技点・・・（２０点）
・基本技術の習得、試合を行うために必要な技術
（経験に応じ、習熟度の向上を評価する）
・ルール等の理解度

授業への参加態度・・・（２０点）
・自己課題への取り組み、課題の記録、フィードバック

・初心者は、基本の技術の向上、バドミントン全般に対する理解度を
深めることに専念し、個人のレベル向上を図れるよう積極的に活動

スポーツ実習ＩＡ　［バドミントン］(3)へ続く↓↓↓

する。

・経験者は、自身の技術・体力の向上を目指す。
また、チームでの活動が円滑に進行するようリーダーシップを発揮する。

・協調性を持って活動する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業時に提示する

[授業外学修（予習・復習）等]

受験等により、運動不足の学生はそれを補えるよう準備をしておくこと。
日常的にストレッチ、ウォーキングや軽いジョグ、軽等度筋力トレーニングなど、過度にならない程度の運動に努めること。

[その他（オフィスアワー等）]

運動に適した服装で参加すること。（高等学校等で使用していた体操服可）
体育館シューズを準備する。
ラケットやシャトルは大学で準備しています。
質問等がある場合は、ガイダンス時に直接確認をする、またはメールにて連絡をしてください。（michihata.meiko.88e@st.kyoto-u.ac.jp）

スポーツ実習の履修には保険への加入を検討してください。原則として「学生教育研究災害傷害保険」（学研災）および「学研災付帯賠償責任保険」（付帯賠責）に、留学生は学研災および「学生賠償責任保険」（学賠）に加入して、授業に参加してください。